2022年度（令和4年度）
横浜市障害者就労支援センター事業
横浜中部就労支援センター
事業報告書

1 新規利用者状況(令和4年4月～3月末)

年齢別

年齢	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	小計	合計	平均年齢
男性	0	14	5	2	0	0	21人	41人	30.4歳
女性	0	8	8	3	1	0	20人		
構成（%）	0.0%	53.7%	31.7%	12.2%	2.4%	0.0%	100%		

居住区別

居住区	鶴見区	神奈川区	西区	中区	南区	港南区	保土谷ケ区	旭区	磯子区	横浜市計
	0	0	2	5	4	5	10	3	2	41人
	金沢区	港北区	緑区	青葉区	都筑区	泉区	栄区	戸塚区	瀬谷区	
	0	2	1	1	0	1	0	1	4	
	川崎市	合　計								
	0	41人								
	その他									
	0									

世帯別

世帯	単身	G･H、通勤寮等	家族同居で支援を得られる	家族同居で支援を得られない	その他	不明	計
	7	0	29	5	0	0	41人
構成比（%）	17.1%	0.0%	70.7%	12.2%	0.0%	0.0%	100%

相談経由機関

紹介機関	ハローワーク	就業センター	特別支援学校	就労移行	その他福祉	区福
	2	0	6	6	4	0
構成比（%）	4.9%	0.0%	14.6%	14.6%	9.8%	0.0%

医療機関	企業	相談機関	直接･HP	その他	計
1	6	2	7	7	41人
2.4%	14.6%	4.9%	17.1%	17.1%	100%

登録の解除（令和4年4月～3月末）

年齢別

月	年齢	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	小計	理由
4月	男性	0	7	2	4	1	0	14人	その他
	女性	0	0	2	2	0	0	4人	
5月	男性	0	0	1	1	0	0	2人	辞退
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
6月	男性	0	0	0	1	0	0	1人	辞退
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
7月	男性	0	0	0	0	0	0	0人	
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
8月	男性	0	0	0	0	0	0	0人	
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
9月	男性	0	0	0	0	0	0	0人	
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
10月	男性	0	0	0	0	0	0	0人	
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
11月	男性	0	0	0	1	0	0	1人	転居
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
12月	男性	0	0	0	0	0	0	0人	
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
1月	男性	0	0	1	0	0	0	1人	転居
	女性	0	0	0	0	0	0	0人	
2月	男性	0	7	2	4	1	0	14人	辞退、その他
	女性	0	2	5	1	0	1	9人	
3月	男性	0	2	0	0	0	0	2人	辞退
	女性	0	0	2	0	0	0	2人	
	小計	0	18	15	14	2	1	合計	

50人

障害別

障害種別	知的A1	知的A2	知的B1	知的B2	精神1級	精神2級	合計
	0	1	7	19	0	6	50人
	精神3級	身体1級	身体2級	身体3級	身体4級	身体5級	
	16	0	0	0	0	0	
	身体6級	その他	手帳なし				
	0	0	1				

登録者数

令和4年4月～令和5年3月の新規登録者数	41名	(前年度同期間　40名
令和5年3月末までの総登録者数	411名	(前年度比　103%　)

2　支援状況

新型コロナウイルス感染状況が落ち着きを見せ、対面での訪問や支援が戻りつつある一方で定期面談や採用面接、企業における勉強会等、様々な場面においてオンラインが活用されています。また、働き方の多様性も広がり、在宅勤務を目指す方の相談もあり、特に来所相談が困難な難病の方や身体障がいの方においてはオンライン相談は必要な手段であり、有効な手段だと考えます。

相談者の多様化、障がい種別の多様化が進んでいますが、当センターが建物構造的にバリアフリー化出来ないこともあり、どなたの相談も受ける一次相談機関としては、オンラインでの相談環境を整備することがハード面の課題です。

年間を通して求職相談よりも、定着支援に関する引継ぎ相談等が多くありました。一方で、制度のはざまの方や社会の中での生きにくさのご相談が多く、就労支援センターへの登録には至らない方も散見されました。また、ご家族からの相談では引きこもりの方のご相談も少なからずありましたが、ご本人の意志と言うよりはご家族の希望が強い印象でした。ご相談の多くは『働く』と言う入り口からのご相談ですが、複合的な背景や課題があり関係機関と連携した支援が必要な相談が年々多くなって来ています。就労支援センターの定着支援については、横浜市障害者就労支援センターとして、企業・事業所向けのリーフレットを作成し、就労支援センターとしての考え方等を統一して伝えるツールとして活用します。

企業支援として、障害者雇用に関するご相談や企業内勉強会の依頼をお受けしました。また、西区自立支援協議会内で就労支援部会を立ち上げ、就労移行支援事業所との横の繋がりを構築すべく準備を進め、次年度から部会を開催する予定です。

センター内実習実施状況（令和4年4月～令和5年3月末）　単位　人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	1	1	0	2	0	2	0	2	2	0
										計	10

センター内実習に関して、コロナ禍の状況を鑑みて感染予防対策を講じ、センター内で人数を2名までと限定した対応を年間を通じて実施しました。多角的な視点で観察するよう、可能な時は法人内事業所エヌ・クラップの協力を得て、実践的な作業を行い、職員間で情報を共有しながら実習を実施しました。

企業実習状況（令和5年3月末現在）

職場体験実習	障がい種別	性別	業種	延べ日数
			実施なし	0

※職場体験実習は職業体験のみの実習、就労準備実習は雇用を前提とした実習となります。

就職準備実習	障がい種別	性別	業種	延べ日数	就業
	精神障害	女	品だし	3	なし
	精神障害	男	清掃	5	あり

就労者の状況（令和5年3月末現在）

新規就労者

	年齢	障がい種別	性別	採用月	業種	備考（雇用形態等）
1	30	知的B2	男	4月	軽作業	パート
2	23	知的B2	男		接客	A型
3	37	知的B2	男	5月	軽作業・清掃	A型
4	40	知的B2	男	6月	清掃	契約社員
5	54	知的B1	男	7月	軽作業・清掃	A型
6	57	精神3級	男	10月	事務補助	契約社員
7	32	知的B2	女	12月	清掃	パート
8	31	知的B2	男	3月	販売補助	正社員
9	34	知的B1	女		調理補助	パート

定着支援からの支援、既に他機関経由で就職が決まった方、自力で就労した方の支援

	年齢	障がい種別	性別	採用月	業種	備考（雇用形態等）
1	31	精神3級	男	4月	仕分け	パート
2	20	精神2級	女		清掃	契約社員
3	28	身体3級	男		事務	正社員
4	25	知的B2	男	5月	事務補助	契約社員
5	39	精神3級	女		事務	契約社員
6	29	精神3級	男	6月	事務補助	契約社員
7	45	精神3級	男	7月	品だし	パート
8	28	精神3級	男		事務	契約社員
9	23	知的B1	男		食品製造	契約社員
10	32	知的B2	女		事務補助	契約社員
11	32	精神2級	男	8月	事務補助	契約社員
12	37	精神2級	男		事務補助	契約社員
13	34	精神3級	女		事務	契約社員
14	22	知的B2	男	9月	事務補助	契約社員
15	40	知的B2	男	10月	事務	正社員
16	21	知的B2	女		メール室	契約社員
17	23	知的B2	男		事務	正社員
18	28	精神2級	男		事務	契約社員
19	35	精神2級	男		事務	契約社員
20	37	精神3級	女		裁縫	パート
21	57	精神3級	男	11月	事務	契約社員
22	25	知的B2	男	12月	清掃	正社員
23	21	知的B2	男		清掃、事務代行	契約社員
24	24	知的B1	男	1月	軽作業	契約社員
25	20	知的B1	男		清掃	正社員
26	44	精神2級	男	2月	洗濯	パート
27	54	精神3級	男		接客	パート
28	47	精神3級	女		コールセンター	パート
29	25	知的B2	女		事務補助	パート
30	28	知的B1	男		盛り付け	パート
31	36	知的B2	女	3月	倉庫	パート
32	22	精神2級	女		事務補助	契約社員
33	27	精神3級	女		事務補助	契約社員
34	24	知的B2	女		事務補助	正社員

就労者（新規就労者：定着支援からの就労者を含む）

令和5年3月末　就労者数	43
現在就業中の数	42

※現在就業中の数は離職者を引いた数値です。

障がい種別内訳

知的	23	53%
精神	19	44%
身体	1	2%

3　重点課題の結果

（1）専門性を高め支援の質の向上を図り、多様化する就労支援ニーズに応じます

①働き甲斐のある雇用を促進することをめざし、個々のニーズを把握、尊重しつつ、働き続ける基盤づくりのため、エビデンスに基づいた個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援ができているか、モニタリングを実施します。

➡ ○登録者状況確認時に以前登録された方についても、支援の現状と課題について確認し、必要に応じて支援や支援の方向性の確認を行い、担当者だけが抱え込み支援が偏らないよう情報共有にも努めました。

②西区を中心とした近隣区の自立支援協議会に積極的に参加し、地域ネットワーク形成に努めます。 また、西区、中区、瀬谷区のセーフティネット会議にも参加し、地域課題やニーズの把握に努め、広域的な連携もできるよう情報共有と顔の見える関係作りに努めます。

➡ ○地域ネットワークづくりに関して、西区の自立支援協議会の中で次年度より就労支援部会を立ち上げる準備を進め、実施出来る運びとなりました。

③法人内外の研修会(精神保健、相談支援、就業支援、他機関との連携支援等、基礎研修から具体的な事例検討会等)に年3回以上を目標に参加し、人権、意思決定支援、就労支援の知識や技術を学び職員のさらなる資質向上をめざします。研修レポートについて確認し、朝礼等の時間を活用し職場内で共有することで人材育成に活用します。

➡ △人権や虐待防止に係る研修は全員参加しました。研修参加に関しては、個々の参加に偏りがありますが、学んだことは業務に活かすことを目的とし、社内で共有、研修レポートを提出しています。

（2）職員が健全な心身で働ける職場の確立に努めます

①定期的な面談の場を設け、職務に対する目標と課題を確認しながらモチベーションを保ち、業務が遂行できるよう、職員の心身の健康維持に努めます。

➡ ○在宅勤務を止めたことで、対面による話し合いや個別面談の機会を適宜持つことが出来ました。

4 研修報告

法人内研修参加状況

日程	研修名称	参加人数
7月4日	苦情解決研修	2人
2月15日	苦情解決研修	2人

その他研修参加状況

日程	研修名称	参加人数
5月17日	障害者支援における価値と倫理って何ですか？	3人
5月25日	港南区地域移行定着部会精神講座「統合失調症」	1人
7月2日	生活創造空間にし研修「不安の正体」上映会	1人
7月9日	『普通に死ぬ～いのちの自立～』映画上映会＆トークイベント	1人
7月11日	依存症対策スキルアップ研修	1人
7月11日	第1回あさひ又村塾「にも包括ってなに？」	1人
7月27日	港南区地域移行定着部会精神講座「気分障害の理解と対応」	2人
8月4日	精神障害者雇用・職場定着支援セミナー（第1回）	1人
8月8日	依存症対策スキルアップ研修	1人
8月9日	不安を抱えやすい人への理解と支援～認知行動療法の視点から～	3人
8月10日	引きこもり支援研修『本人の気持ちと関係構築』	1人
8月19日	引きこもり支援研修『家族の気持ちと家族支援の重要性』	1人
8月21日	てんかんと雇用に関するセミナー	1人
8月27日	聴こう・学ぼう　働くこと＆リカバリー	1人
9月1日	「障害者就労支援力」について考える	3人
9月13日	個人情報保護法研修	2人
9月28日	港南区地域移行定着部会精神講座「パーソナリティ障害」	2人
10月28日	障害者支援における権利擁護～虐待防止と意思決定支援～	3人
11月30日	「職場うつ」の理解と対応について	1人
1月6日	障害福祉サービス利用者の想いを聴く	1人
1月11日	「障害のある方が望む地域生活と課題」	1人
1月16日	労働法規とコロナ禍の労働問題	1人
1月18日	神奈川県障がい者就労支援機関向け研修（医療連携）	1人
2月6日	障害者虐待防止の基本の『キ』	1人
2月8日	自己理解がカギ～自分自身の心の健康とそのケア～	1人
2月13日	障害者雇用の研修会	1人
2月14日	川崎市の取り組みについて	3人
2月20日	高次脳機能障害のある人への就労支援	2人

5 事故報告

(1)事故報告

	日時	事故内容	対応
	なし		

(2)インシデント

	件数		件数
4月	0	10月	0
5月	0	11月	0
6月	0	12月	0
7月	0	1月	0
8月	0	2月	0
9月	0	3月	0
		計	0

(3)ヒヤリハット

	件数		件数
4月	0	10月	1
5月	0	11月	0
6月	0	12月	0
7月	0	1月	0
8月	1	2月	1
9月	1	3月	1
		計	5

6　苦情報告
(1)苦情報告

	日時	事故内容	対応
	なし		

(2)クレーム

	件数		件数
4月	0	10月	0
5月	0	11月	0
6月	0	12月	0
7月	0	1月	0
8月	0	2月	0
9月	0	3月	0
		計	0

7　第三者評価
第三者評価の実施　　無